

教科(科目)	公民(公共)	単位数	2単位	学年(文・理)	2学年
使用教科書	『詳述 公共』(実教出版)				
副教材等	『2023 ズームアップ公共資料』(実教出版)『演習ノート詳述公共』(実教出版)				

1 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(思考・判断・表現)
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。(主体的に学習に取り組む態度)

2 指導の重点

- ① 公共で学習する用語の意味を正しく理解して、文章の正確な読解や記述・表現ができることを目指します。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身につけることを目指します。
- ③ レポート作成や発表、討論を通して、他者の意見を共感的に理解しようとする態度を育てます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	人間と社会の在り方関わる諸事情に関して、現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	人間と社会の在り方に関わる事象について現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	人間と社会の在り方に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・小テストの分析 ・ワークブックやレポート課題の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークブックやレポート課題の内容の確認 ・授業における発言、取り組みの様子などの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークブックやレポート課題の内容の確認 ・授業における発言、取り組みの様子などの観察 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	第1章 社会を作る私 たち	6	1. 生涯における青年期の意義 2. 青年期と自己形成の課題 3. 職業生活と社会参加 4. 現代社会と現代の生き方	<ul style="list-style-type: none"> ・人生における青年期の意義を理解する。 ・青年期の特徴を理解する。 ・青年期において直面する葛藤や欲求不満などの困難とその対処法を理解する。 ・パーソナリティの理論や青年期の発達課題を理解する。 ・働くことの意義と社会参加の意義を理解する。 ・望ましい社会のあり方と自己の生き方との関連について考える。 ・日本人の伝統的な考え方や人間関係の特徴について理解する。 ・国際社会で生きるために、日本人が身に付けるべき態度と能力を考える。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み
5	第2章 人間としてよ く生きる	9	1. ギリシアの思想 2. 宗教の教え 3. 人間の尊重 4. 人間の自由と尊厳 5. 個人と社会 6. 主体性の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・理想的な人間の生き方についてのソクラテス、プラトン、アリストテレスの主張を理解する。 ・三大世界宗教のそれぞれの特徴を理解する。 ・各宗教が説いた、人間の生き方や社会のあり方について理解する。 ・中世末期から近代初期のヨーロッパで生まれた新しい人間観や世界観を理解する。 ・自由についてのカントとヘーゲルの主張を理解する。 ・社会の改良や改革を唱えた、功利主義と社会主義の主張を理解する。 ・実存主義の思想家たちの人間観を理解する。 ・主体性の確立についての思想家たちの主張を理解する。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み
6	第3章 社会とは何か	6	6. 他者の尊重 7. 公正な社会 1. 人間の尊厳と平等 2. 自由・権利と責任・義務	<ul style="list-style-type: none"> ・他者について思索した思想家たちの主張を理解する。 ・公共性の確立について思索した思想家たちの主張を理解する。 ・社会の公正なあり方について思索した思想家たちの主張を理解する。 ・人間の尊厳と平等といった原理の背景にある考え方を理解する。 ・差別や偏見を是正するための取り組みやその背景にある考え方を理解する。 ・個人の自由や権利がどのように認められるのかを理解する。 ・自由・権利と責任・義務の関係が将来世代の問題としても考えられることを理解する。 		
7	第4章 民主国家にお ける基本原理 第1章 日本国憲法の 基本的性格	5	1. 人権保障の発展と民主政治の成立 2. 国民主権と民主政治の発展 1. 日本国憲法の成立 2. 平和主義とわが国の安全	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の誕生と発展について理解する。 ・基本的人権の歴史的発展について理解する。 ・民主政治の意義と課題について理解する。 ・議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解する。 ・二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・憲法の最高法規性について理解する。 ・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・こんいちの安全保障政策の課題について理解する。 		
9	第2章 日本の政治機 構と政治参加	7	3. 基本的人権の保障 4. 人権の広がり 1. 政治機構と国民生活 2. 人権保障と裁判所 3. 地方自治	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ・人権に関する現実社会の課題について理解する。 ・新しい人権について理解する。 ・公共の福祉について理解する。 ・国会と内閣の構成について理解する。 ・官主導社会とその課題について理解する。 ・司法権の独立や裁判について理解する。 ・裁判員制度や検察審査会について理解する。 ・地方自治の本旨について理解する。 ・戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み

10	第3章 現代の経済社会	8	4. 選挙と政党 5. 政治参加と世論 1. 経済社会の形成と変容 2. 市場のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 各選挙制度の特徴と課題について理解する。 日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 マス・メディアやSNSの役割と政治にもたらす影響について理解する。 政治参加の課題について理解する。 資本主義経済が成立、発展してきた時代背景を確認する。 政府の規模を念頭にして、経済的な課題への対応を考える。 市場経済の機能と限界を理解する。 市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解する。 		
11	第4章 経済活動のあり方と国民福祉	9	3. 現代の企業 4. 経済成長と景気変動 5. 金融機関の働き 6. 政府の役割と財政・租税 1. 日本経済の歩みと近年の課題	<ul style="list-style-type: none"> 生産の主体である企業の形態や活動、株式会社の特色、グローバル化による企業の経営環境の変化や課題などについて理解する。 国家の経済活動の規模をあらわし、経済の動きの指標としてのGDP、国富について理解するとともに、経済成長、景気循環、物価について理解する。 現代の経済社会における金融の意義や役割を理解するとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割を理解する。 中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。 政府の財政活動の役割、財政政策、租税の仕組みについて理解するとともに、財政に関わる課題について理解する。 歴史的な事象が日本経済に与えた影響を、統計資料を基に考える。 人口減少社会が経済に与える影響を考える。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み
12		8	2. 中小企業と農業 3. 公害防止と環境保全 4. 消費者問題 5. 労働問題と雇用 6. 社会保障	<ul style="list-style-type: none"> 経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を考える。 これからの中小企業や農業の姿を考える。 経済成長と公害問題との関係を考える。 持続可能な社会をめざすためのさまざまな制度や取り組みについて理解する。 さまざまな問題があることを理解する。 必要な法整備と消費者の責任について考える。 労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。 日本的雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 諸外国の制度との比較も含めて考える。 少子高齢化が進行する中で、望ましい制度のあり方を検討する。 		
1	第5章 国際政治の動向と課題	7	1. 国際社会における政治と法 2. 国家安全保障と国際連合 3. 冷戦終結後の国際政治 4. 軍備競争と軍備縮小 5. 異なる人種・民族との共存 6. 国際平和と日本	<ul style="list-style-type: none"> 国内政治や国内法との比較で考える。 領土問題が生じる背景と望ましい解決方法について考える。 主要機関や専門機関の働きから考える。 とくに安保理改革を材料に考える。 対立構造の変容から、国際社会の力学の変化を考える。 大国の動向や、国家対国家の枠組みに収まらない対立構造について考える。 冷戦による対立構造と安全保障のジレンマを確認する。 核兵器禁止条約の採択に向けた動きを参考にして考える。 ナショナリズムや自民族中心主義との関係から考える。 さまざまな権利保障の制度や取り組みについて理解する。 とくにアジア諸地域の信頼回復の経緯を確認する。 人間の安全保障の観点から考える。 	a b c	定期考査 小テスト ワークブック レポート課題 授業の取組み

2 ・ 3	第6章 国際経済の動 向と課題	5	1. 国際経済のしくみ 2. 国際経済体制の変化 3. 経済のグローバル化と金 融危機 4. 地域経済統合と新興国 5. ODA と経済協力	<ul style="list-style-type: none"> ・比較生産費説を検討して考える。 ・貿易収支の数値から一国の貿易の動向を確認する。 ・具体的な事例を基にして貿易や為替相場の動向が日本経済に与える影響を考える。 ・本文や図版資料を基に、歴史的な経過を確認する。 ・ドーハラウンドにおける先進国と途上国の対立や、二国間交渉への傾倒などから課題を考える。 ・ヒト・モノ・カネが自由に移動した結果、世界はこれまで以上に緊密化したことを確認する。 ・国際的な資本取引の規制やデジタル課税を導入するルール作りが進められていることを確認する。 ・各地域の状況や生じている課題を確認する。 ・中国をはじめとする新興国の動向を確認する。 ・ODA から SDGs につらなる援助と開発の過程について確認する。 ・NGO や企業などによる新しい取り組みについて確認する。 		
-------------	-----------------------	---	---	---	--	--

計70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・学期ごとにワークブックの提出をしてもらいます。
- ・動画の視聴やグループワークなどを実施した際には、簡単なレポート課題を提出してもらいます。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

現代社会では価値観が多様化し、政治・経済も複雑化しています。こんな時代だからこそ先人の知恵が必要です。主体的な哲学が求められています。人としての在り方生き方をじっくり学んで欲しいと思います。公共の授業を通じて、政治や経済の仕組みを学ぶことは、グローバル化がさらに進む未来を生きる皆さんにとって、大きな助けとなると確信しています。一緒に頑張っていきましょう。

(担当：木村 眞悟)

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年(文・理)	2学年(文系)
使用教科書	東京書籍「化学基礎」(化基701)				
副教材等	東京書籍『ニューアチーブ化学基礎』				

1 学習目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

- ①化学が人間生活に果たしている役割を理解するとともに、物質を探究する方法の基礎を身につける
- ②原子の構造や化学結合と物質の性質の関係などを学び、物質について微視的な見方をできるようにする
- ③化学反応に関する基本的な概念や法則を理解し、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・提出物 ・実験レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト ・提出物 ・実験レポート などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評 価 の 観 点	評価方法
4	1 編 化学と人間 生活 1 章 化学とは何 か 2 章 物質の成分 と構成元素	7	1節 物質の 成分	<ul style="list-style-type: none"> ・純物質と混合物 ・混合物の分離 	a c	提出物 小テスト
5	2編 物質の構成 1章 原子の構成 と元素の周期表	7	2節 物質 の構成元素 3節 物質 の三態 1節 原子の 構造 2節 電子配 置 3節 元素の 周期表	<ul style="list-style-type: none"> ・元素 ・単体と化合物 ・元素の確認 ・粒子の熱運動 ・物質の三態と状態間の変化 ・状態変化と熱運動 ・原子 ・同位体 ・原子の電子配置 ・周期表 	a b c	提出物 小テスト 実験レポート 定期考査
6	2章 化学結合	8	1節 イオン とイオン結 合	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンの生成 ・イオンの分類 ・イオン半径 ・イオン結合とイオン結晶 	b c	提出物 小テスト 実験レポート
7		6	2節 分子と 共有結合 3節 金属 と金属結合 4節 化学 結合と物質 の分類	<ul style="list-style-type: none"> ・共有結合と分子の形成 ・配位結合 ・電気陰性度と分子の極性 ・分子結晶 ・共有結合の結晶 ・金属結合 ・化学結合と物質の分類 	a c	提出物 小テスト 定期テスト

9	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	8	1節 原子量 ・分子量・式量 2節 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の相対質量 ・原子量 ・分子量 ・式量 ・アボガドロ数と物質質量 ・1 mol の気体の体積 	b c	提出物 小テスト 定期テスト
10	3編 物質の変化 2章 酸と塩基	8	3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方 5節 化学反応の表す量的関係 1節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ・溶液の濃度 ・化学反応式 ・イオン反応式 ・化学反応の表す量的関係 ・反応物の過不足 ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基 ・酸と塩基の価数 ・酸と塩基の強弱 	a b c	提出物 小テスト 実験レポート
11		8	2節 水素イオン濃度とpH 3節 中和反応と塩	<ul style="list-style-type: none"> ・水の電離と水素イオン濃度 ・水素イオン濃度とpH ・pH指示薬とpHの測定 ・中和反応と塩の生成 ・塩の種類と塩の水溶液の性質 	a c	提出物 小テスト 定期テスト
12		3	4節 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> ・中和滴定の量的関係 ・中和滴定 ・滴定曲線 	b c	提出物 実験レポート
1	3編 物質の変化 3章 酸化還元反応	6	1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化と還元 ・酸化数 ・酸化還元反応と酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応式 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化剤と還元剤の量的関係 	a c	提出物 小テスト

2		5	3節 金属の酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 	b c	提出物 実験レポート
3		4	4節 酸化還元反応の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・電池のしくみ ・実用電池 ・金属の製錬 	b c	提出物 実験レポート 定期テスト

計70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・内容の定着を図るための小テストを行います。
- ・適宜課題を課します。
- ・定期的にノート提出を課し、学習法の定着を図ります。

7 担当者からの一言

化学基礎は、暗記重視の分野と思考重視の分野の差が大きい科目です。
 また、学習法を工夫することにより、素早く上達が可能な科目でもあります。そこで、生徒どうして学び合いを
 実践することで、効率の良い学習ができるはず。常に自分に合った学習法を担当者、他の生徒、インターネット
 上などから見つけることをお勧めします。そのほか、よりよい方法を担当者に知らせて、授業の質を高めること
 も歓迎します。一緒に頑張りましょう。

(担当：中村 悟利)

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	3単位	学年(文・理)	2学年 (理系)
使用教科書	東京書籍「化学基礎」(化基701)				
副教材等	東京書籍『ニューアステップアップ化学基礎』				

1 学習目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

- ①化学が人間生活に果たしている役割を理解するとともに、物質を探究する方法の基礎を身につける
- ②原子の構造や化学結合と物質の性質の関係などを学び、物質について微視的な見方をできるようにする
- ③化学反応に関する基本的な概念や法則を理解し、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・提出物 ・実験レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト ・提出物 ・実験レポート などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評 価 の 観 点	評価方法
4	1 編 化学と人間 生活 1 章 化学とは何 か 2 章 物質の成分 と構成元素	10	1節 物質の 成分	<ul style="list-style-type: none"> ・純物質と混合物 ・混合物の分離 	a c	提出物 小テスト
5	2編 物質の構成 1章 原子の構成 と元素の周期表	10	2節 物質 の構成元素 3節 物質 の三態 1節 原子の 構造 2節 電子配 置 3節 元素の 周期表	<ul style="list-style-type: none"> ・元素 ・単体と化合物 ・元素の確認 ・粒子の熱運動 ・物質の三態と状態間の変化 ・状態変化と熱運動 ・原子 ・同位体 ・原子の電子配置 ・周期表 	a b c	提出物 小テスト 実験レポート 定期考査
6	2章 化学結合	12	1節 イオン とイオン結 合	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンの生成 ・イオンの分類 ・イオン半径 ・イオン結合とイオン結晶 	b c	提出物 小テスト 実験レポート
7		9	2節 分子と 共有結合 3節 金属 と金属結合 4節 化学 結合と物質 の分類	<ul style="list-style-type: none"> ・共有結合と分子の形成 ・配位結合 ・電気陰性度と分子の極性 ・分子結晶 ・共有結合の結晶 ・金属結合 ・化学結合と物質の分類 	a c	提出物 小テスト 定期テスト

9	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	1 2	1節 原子量 ・分子量・式量 2節 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の相対質量 ・原子量 ・分子量 ・式量 ・アボガドロ数と物質質量 ・1 mol の気体の体積 	b c	提出物 小テスト 定期テスト
10	3編 物質の変化 2章 酸と塩基	1 2	3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方 5節 化学反応の表す量的関係 1節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ・溶液の濃度 ・化学反応式 ・イオン反応式 ・化学反応の表す量的関係 ・反応物の過不足 ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基 ・酸と塩基の価数 ・酸と塩基の強弱 	a b c	提出物 小テスト 実験レポート
11		1 2	2節 水素イオン濃度とpH 3節 中和反応と塩	<ul style="list-style-type: none"> ・水の電離と水素イオン濃度 ・水素イオン濃度とpH ・pH指示薬とpHの測定 ・中和反応と塩の生成 ・塩の種類と塩の水溶液の性質 	a c	提出物 小テスト 定期テスト
12		6	4節 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> ・中和滴定の量的関係 ・中和滴定 ・滴定曲線 	b c	提出物 実験レポート
1	3編 物質の変化 3章 酸化還元反応	9	1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化と還元 ・酸化数 ・酸化還元反応と酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応式 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化剤と還元剤の量的関係 	a c	提出物 小テスト

2		7	3節 金属の酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 	b c	提出物 実験レポート
3		6	4節 酸化還元反応の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・電池のしくみ ・実用電池 ・金属の製錬 	b c	提出物 実験レポート 定期テスト

計 105 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・内容の定着を図るための小テストを行います。
- ・適宜課題を課します。
- ・定期的にノート提出を課し、学習法の定着を図ります。

7 担当者からの一言

理系クラスでは、発展的な内容も取り扱い、次年度の「化学」の考え方になじみやすいように思考法などを指導します。

また、化学基礎は、暗記重視の分野と思考重視の分野の差が大きい科目です。しかし、学習法を工夫することにより、素早く上達が可能な科目でもあります。そこで、生徒どうして学び合いを実践することで、効率の良い学習ができるはず。常に自分に合った学習法を担当者、他の生徒、インターネット上などから見つけることをお勧めします。そのほか、よりよい方法を担当者に知らせて、授業の質を高めることも歓迎します。一緒に頑張りましょう。

(担当：中村 悟利)

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年(文・理)	2学年
使用教科書	大修館書店 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店 『現代高校保健体育ノート』				

1 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 指導の重点

2年次の体育授業では、生涯にわたって豊かなスポーツライフを維持する資質・能力の基礎を培うものとして種目選択を行う中で、

- ①生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見することを目指します。
- ②課題に対して合理的、計画的な実践に向けて思考し判断する力を身に付けることを目指します。
- ③活動を通して自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養います。
- ④公正、協力、責任、参画、共生などの社会的態度を養い、スポーツの文化的価値に対する理解を深めます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや目的に応じた運動の組み合わせを工夫しているとともに、それらを他者に伝え、共有し協働している。	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【60%】	思考・判断・表現 b 【20%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	・運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや目的に応じた運動の組み合わせを工夫しているとともに、それらを他者に伝え、共有し協働している。	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・実技試験における技術レベルや記録の分析 ・レポートや学習カード、提出物などの内容の確認	・実技試験における技術レベルや記録の分析 ・授業中の取り組み、活動の様子 ・レポートや学習カード、提出物などの内容の確認	・授業への参加と授業中の取り組み、活動の様子 ・レポートや学習カード、提出物などの内容の確認

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	オリエンテー ション	1		<ul style="list-style-type: none"> ・体育を学習する意味を理解し、学習に対する意欲を高める ・授業における注意事項等を確認する 		
	体づくり運動	6	体ほぐしの運動 ラジオ体操 体力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう ・ラジオ体操第一を正しく行い、しっかりとした動きを身につける ・体力テストを行い、自らの体力を知り、運動能力の向上に努力する 	b c	活動の様子 (行動の観察) 実技テスト (技術の確認)
5	陸上競技 グラウンドコ ース走 1000M 走 1500M 走	6	<晴天時> 長距離走	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離走における技術と体力について理解し、自己の限界に挑戦することを通して、走りきることによる達成感や記録の向上による喜びを味わう ・仲間と切磋琢磨し、記録を向上させたり競走したりすることの楽しさや喜びを味わう 	a b	活動の様子 (行動の観察) 計測・実技テス ト (技術の確認) 学習カード・記 録用紙 (記述の点検)
6 ・ 7	選択Ⅰ期	2 7	<晴天時> サッカー (女) ソフトボール (男) テニス <雨天時> バレーボール バドミントン 器械運動	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わう ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する ・技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう ・技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などの理解をする ・自己に適した技で演技する ・感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わう 	a b	活動の様子 (行動の観察) 実技テスト (技術の確認) 学習カード (記述の点検)
8 ・ 9	選択Ⅱ期	2 7	<晴天時> サッカー(男) ソフトボール(女) テニス	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わう ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の 		活動の様子 (行動の観察) 実技テスト (技術の観察)

10 ・ 11			＜雨天時＞ バレーボール バドミントン ダンス	仕方などを理解する ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する ・技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう ・技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などの理解をする ・自己に適した技で演技する ・感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わう ・ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、交流や発表の仕方、課題解決の方法、体力の高め方などを理解する	a b c	活動の様子 (行動の観察) 実技テスト (技術の確認) 学習カード (記述の点検)
11 ・ 12	選択Ⅲ期	16	バレーボール バスケットボール 卓球	・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わう ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する	a b c	活動の様子 (行動の観察) 実技テスト (技術の確認) 学習カード (記述の点検)
1 ・ 2	選択Ⅳ期	16	バスケットボール バドミントン 卓球	・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わう ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する	a b c	活動の様子 (行動の観察) 実技テスト (技術の確認) 学習カード (記述の点検)
3	体育理論 体育編2単元 運動・スポーツの学び方	6	現代高等保健体育改訂版(体育編)	・運動やスポーツで得られることの効果的な学び方について学習する 1 スポーツにおける技能と体力 2 スポーツにおける技術と戦術 3 技能の上達過程と練習 4 効果的な動きのメカニズム 5 体力トレーニング 6 運動やスポーツでの安全の確保	b c	レポート作成 (記述の点検)

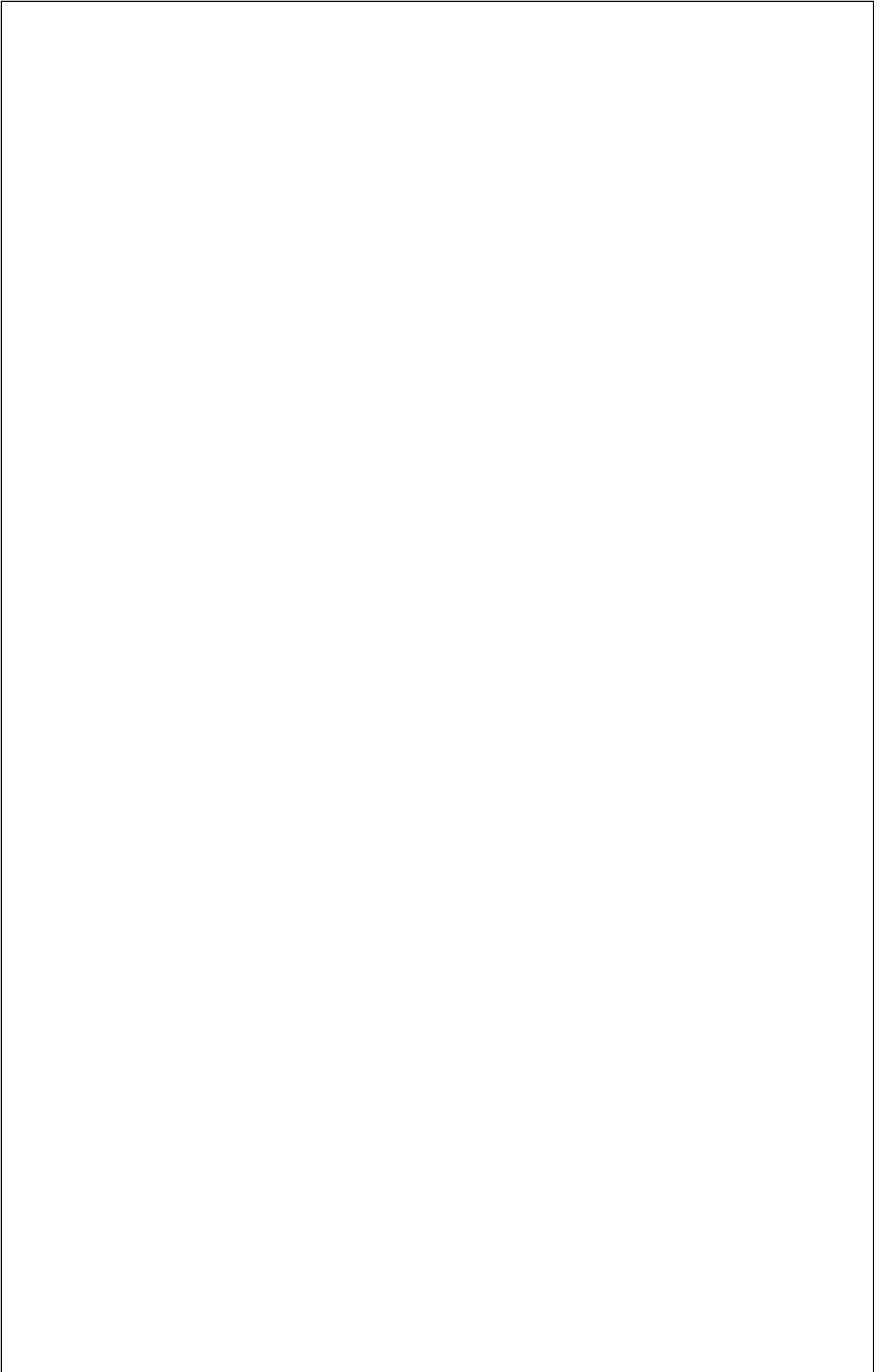
計 105 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・各種目の最後に記録の計測や実技テストを行う。
- ・怪我等で見学をする場合は、前もって担当者に申し出て、授業後に見学用紙を提出する。
- ・体育理論では課題レポートを作成し、毎時間授業後に提出する。

7 担当者からの一言

2年次の体育授業では、自ら選択した種目を中心に活動する中で、様々な課題を発見し、解決に向けて思考を深め、仲間と意見を出し合い判断し、協働したり学び合う活動を重視しています。積極的に参加して生涯にわたって運動を継続するために必要な力を身に付けていきましょう。
(担当：夏見 陽子)



教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1単位	学年(文・理)	2学年
使用教科書	大修館書店 『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店 『現代高校保健体育ノート』 『図説現代高等保健』				

1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 指導の重点

小学校・中学校の内容を踏まえた系統的な学習であり、入学年次であることから、

- 授業の進め方や内容について理解し、基本的な学習のスタイルを身に付ける事を目指す。
- 現代社会と健康、安全な社会生活について理解を深め、自他や社会の課題を発見する事を目指す。
- 課題の解決に向けて思考し判断する力を身につけることを目指す。
- 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、明るく豊かで活力ある生活に生かされるものとして身に付けている。	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、状況に応じて他者と共有し協働している。	・積極的な態度で授業に参加し、主体的に学習に取り組んでいる。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a 【40%】	思考・判断・表現 b 【40%】	主体的に学習に取り組む態度 c 【20%】
評価の観点	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、自身の生活に生かされるものとして身に付けようとしている。	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、状況に応じて他者と共有し協働しようとしている。	・積極的な態度で授業に参加し、主体的に学習に取り組もうとしている。
評価方法	・定期テストの分析 ・学習ノートやレポート、ワークシート等、提出物などの内容の確認	・定期テストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・学習ノートや、レポート、ワークシート等、提出物の内容の確認	・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・学習ノートや、レポート、ワークシート等、提出物の内容の確認

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 5	3単元 生涯を通 じる健康	3 「A 話す こと・聞 くこと」	1. ライフステー ジと健康 2. 思春期と健康	1) ライフステージと死亡や病気 2) 各ライフステージにおける健康課 題とその支援 1) 思春期の体と健康 2) 思春期の心と健康	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)
6		5 「B 発表・ 実習する こと」	3. 性意識と性行 動の選択 4. 妊娠・出産・と 健康 5. 避妊法と人工 中絶	1) 性意識とその尊重 2) 性に関する情報と性行動 1) 受精・妊娠・出産 2) 母子健康サービス 1) 家族計画の意義と避妊法 2) 人工妊娠中絶 ①性教育について考えてみよう ②それは本当に正しい避妊法ですか	b c a b	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み (行動の観察) 課題への取り組 み、発表の様子 (行動の確認)
7		3 「A 話す こと・聞 くこと」	6. 結婚生活と健 康 7. 中高年期と健 康	1) 結婚生活の基盤となる心身の発達 2) 結婚生活と家族の健康 1) 加齢による変化と健康 2) 高齢者の健康を支える取り組み	b c a b	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み (行動の観察) 定期テスト 学習ノート・ 授業プリント (記述の点検)
8 9	4単元 健康を支え る環境づく り	5 「B 発表・ 実習する こと」	8. 働くことと 健康 9. 労働災害と 健康 10. 健康的な職 業生活	1) 働くことと健康のかかわり 2) 働き方と健康問題の変化 1) 労働災害とその要因 2) 労働災害の防止 1) 職場における取り組み 2) 仕事と生活の調和 ①仕事を健康の視点から考えてみよう	b c	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み、グル ープワーク (行動の観察)
10		5 「C 調べ ること」	1. 大気汚染と 健康 2. 水質汚濁、土 壌汚染と健康	1) 大気汚染の原因と健康影響 2) 大気にかかわる地球規模の問題点 1) 水質汚濁とその健康影響 2) 土壌汚染とその健康影響 3) 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のか かわり	b c a	授業への参加と 授業での発言・ 取り組み (行動の観察) 課題レポート (記述の点検)

11	定期テスト	5 「A 話すこと・聞くこと」	3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備	1) 環境汚染の防止とその対策 2) 産業廃棄物の処理と健康 1) ごみの処理の現状 2) 安全で良質な水の確保 ①過去の公害を振り返ってみよう ②海洋プラスチックごみについて考えてみよう	b c a b	授業への参加と授業での発言・取り組み、グループワーク (行動の観察) 定期テスト 学習ノート・授業プリント (記述の点検)	
		1	3 「B 発表・実習すること」	5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動	1) 食品の安全性と健康 2) 食品の安全性に関する今日的課題 1) 食品の安全性の確保 2) 食品の安全と私たちの役割 ①健康食品などの広告を分析してみよう ②栄養素や食品のブームについて考えてみよう	b c	授業への参加と授業での発言・取り組み、グループワーク (行動の観察)
			3 「A 話すこと・聞くこと」	7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用	1) 保健行政の役割 2) 保健サービスの活用 1) 医療の供給と医療保険 2) 医療機関と医療サービスの活用	b c	授業への参加と授業での発言・取り組み (行動の観察)
			4 「B 発表・実習すること」	9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策	1) 医薬品の種類と使用法 2) 医薬品の副作用と安全性を守る取り組み ①医療機関のかかり方について考えてみよう ②サリドマイド薬害に学ぶ 1) 健康を支える保健活動と社会的対策 2) 保健活動や社会的対策への住民の理解	a b	定期テスト 学習ノート・授業プリント (記述の点検) 課題レポート (記述の点検)
2 3	2	11. 健康に関する環境づくりと社会参加	1) 健康と環境づくり 2) 環境づくりへの社会参加と情報の活用 ①あなたは健康情報を正しく判断していますか ②健康政策を考えてみよう		授業への参加と授業での発言・取り組み、グループワーク (行動の観察) 定期テスト 学習ノート・授業プリント (記述の点検)		

計 35 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・各学期の定期考査終了後、副教材として使用するノートやプリント類の提出があります。
- ・グループワークや実習の記録、レポート作成を取り入れる予定です。

7 担当者からの一言

保健学習の最終学年となります。2年次では個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けることができるように、ipad を用いた学習や演習問題などを通して学習を進めます。生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指して、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付け、常に自分事として捉え今後の社会生活に役立てていきましょう。(担当：夏見 陽子)

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	教育図書『家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来』				
副教材等	実教出版『ニュービジュアル家庭科』		教育図書『家庭基礎 学習ノート』		

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

2 指導の重点

近年、家庭における様々な生活体験の機会が少なくなっている生徒が増加していることから、

- (1) 生活を営む上で必要な基本的知識や技能の習得を目指します。
- (2) 実習やグループワークを通して自分の考えを表現し、他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
- (3) 各自の生活を充実向上させるため、学習したことを生活の場で生かせるようにすることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解している。 ・生活を主体的に営むために必要な基礎的な技術を身に付け、情報の収集・整理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を主体的に営むために必要な問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察したことを論理的に表現するなどして、生活の課題を解決する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に営むために、課題の解決に取り組んだり、改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

4 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解している。 ・生活を主体的に営むために必要な基礎的な技術を身に付け、情報の収集・整理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を主体的に営むために必要な問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察したことを論理的に表現するなどして、生活の課題を解決する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に営むために、課題の解決に取り組んだり、改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの分析 ・実習で製作した作品のできばえ ・演習レポートでの情報の収集・整理 ・授業ワークシート、学習ノートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの分析 ・授業中の発言、発表や討論、実習への取組の観察 ・レポートや授業ワークシート、学習ノートなどの表現の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察、実習での態度や状況 ・レポートや授業ワークシート、学習ノートなどの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	家庭基礎を学ぶ		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の意義や内容、学ぶことの重要性を理解させる 	5	ワークシート (記述の点検)
	生活設計	1 これからの人生に向かって	<ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージの特徴、青年期の自立について考え、課題と意志決定の必要性を理解する。 		発表の様子
	青年期と家族	2 家族って何だろう	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の役割を知り、家族のあり方を考える。 ・家族に関する法律について理解する。 		(行動の確認)

	5	保育	1 子どもの成長を見つめる 2 子どもの生活と保育 3 これからの子育てと環境	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義をとらえ、子どもにとってよい環境について考察する。 ・生命の尊さを認識し、親の役割や子どもを生き育てることの意義を学ぶ。 ・子育てを支える社会のしくみを知り、これから子どもを育てる世代になることを実感する。 <実習> 妊婦体験・離乳食体験	8	ワークシート 映像教材視聴記録 体験レポート (記述の点検) 発表・実習の様子 (行動の確認)
	6	食生活	1 食べるということ 2 私たちがたべているもの 3 安全にたべるために 4 健康にたべるために 5 おいしくたべるために 6 ずっと食事を楽しむために	・自分の食生活を振り返り、問題点を意識させる。 ・栄養素の種類と働きや食品について知識を身につける。 ・日本の食文化を守りながら、環境を考えた食生活を目指す。 ・食中毒、食品添加物、食品表示についての知識を身につける。 ・高校生の一日の献立を作成する。 <演習> 献立作成 ・調理実習を行い、調理の理論と技術や食卓作法を身につける。 <実習> 調理実習	20	ワークシート 映像教材視聴記録 実習レポート (実習態度、記述の点検) 発表・実習の様子と 取り組み (行動の確認)
	7	定期考査			1	学習ノート
	8	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ		・ホームプロジェクトの意味と進め方を理解させ、実践する意欲を培う。	2	レポート・ (記述の点検) 作品(できばえ)
	9	衣生活	1 衣服のはたらき 2 衣服ができるまで 3 衣服の計画と管理 4 これからの衣生活	・各自の衣生活を通して衣服に関心を持つ。 ・状況に合わせた衣服選択の大切さを理解し、社会生活に生かすことができる。 ・資源の有効利用の観点から購入、活用、手入れ、再利用、廃棄まで考えた被服計画を立てることができる。 <被服実習> 基礎技術を使った小物製作	10	ワークシート 実習レポート (記述の点検) 実習の様子と取り組み (態度、行動の確認) 作品(できばえ)
	10	住生活	1 住まいとは 2 安全な住まい 3 快適な住まい 4 住まいの課題と未来の暮らし	・住生活の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて科学的に理解させる。 ・住生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した住生活を営むことができるようにする。 <実習> 平面計画 ひとり暮らしの住居	8	ワークシート 演習レポート (記述の点検) 実習の取り組み (態度、できばえ)
		定期考査			1	学習ノート
	11	経済計画	1 家計とお金の将来を考えよう	・家計管理について具体的な事例を通してシミュレーションする。 <演習> 家計簿	8	ワークシート 映像教材視聴記録 演習レポート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
	12	消費生活と環境	1 何をどうやって買う 2 かしこい消費者になろう 3 環境問題を考える	・消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し、具体的に考えられる。 ・契約、消費者問題、消費者信用について理解し、消費者保護のしくみを認識させる。 ・消費行動と持続可能な社会を目指す活動を生活の中で結びつけられる。		

1	高齢期と共生社会	1 高齢期とは	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解させる。 ＜実習＞ 高齢者疑似体験 ・介護の基礎を体験的に学ぶことを通して、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させる。 	4	ワークシート 映像教材視聴記録 体験レポート (記述の点検) 発表・実習の様子 (行動の確認)
		2 高齢化する日本を生きる			
2		3 共生とは			
3	定期考査			1	学習ノート
		学習の振り返り	家庭基礎の振り返り	2	ワークシート (記述の点検)

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 毎時間、ワークシートを記入し、提出してもらいます。
- ・ 被服実習では作品を製作、調理実習ではレポートを作成して提出してもらいます。
- ・ 定期考査後に学習ノートを提出してもらいます。
- ・ 長期休業中にホームプロジェクトの実践活動をし、報告してもらいます。

7 担当者からの一言

学習したことで各自の生活で活用できるものを見つけ、実行してください。知識や技能を確実に身につけ、生活の充実向上に必要なことは何かを考え、実践していきましょう。

(担当：浅野 由利)